

令和4年度  
環境活動登録団体 eco ワーク発表会  
事業報告書



日時 令和5年2月8日(水)14:00～16:30

場所 中央区立環境情報センター研修室

 中央区立環境情報センター    
☎03-6225-2433  <https://eic-chuo.jp/>  
📍東京都中央区京橋3丁目1番1号 東京スクエアガーデン 6階 

# 目 次

◆ 環境活動登録団体 eco ワーク発表会プログラム	1
◆ 環境活動登録団体 eco ワーク発表会参加団体名簿	2
◆ 環境活動登録団体 eco ワーク発表会議事録	3
【開会】	
【挨拶：環境課長】	3
【活動発表】	
発表1 『中央区で生まれた“コミュニティ芝生”という芝生の育て方』	4
発表2 『絶滅したオオカミの謎を探って』	7
発表3 『循環型社会の形成を目指した SDGs への取り組み』	10
【交流会】	
① 自己紹介・活動報告	13
② 意見交換・質疑応答	21
【所感・総括コメント：環境課長】	24
【閉会】	
◆ 環境活動登録団体活動報告書(登録順)	25
◆ アンケート結果	35

# 令和4年度 環境活動登録団体ecoワーク発表会 プログラム

実施日 令和5年2月8日（水）

時間 14:00～16:30

場所 中央区立環境情報センター研修室



## 〈 次 第・スケジュール 〉

### 1. 開 会 14:00～

- ◆ 開 会
- ◆ 挨拶 中央区環境土木部環境課長 武藤 智宣

### 2. 活 動 発 表 14:10～

- ◆ 発表1 『中央区で生まれた“コミュニティ芝生”という芝生の育て方』 (14:10～  
特定非営利活動法人 育てる芝生 ～イクシバ！プロジェクト
- ◆ 発表2 『絶滅したオオカミの謎を探って』 (14:30～  
狼と森の研究所
- ◆ 発表3 『循環型社会の形成を目指したSDGsへの取り組み』 (14:50～  
一般社団法人 日本資源環境保護促進協会

### 3. 交 流 会 15:20～

- ◆ 自己紹介・活動報告 (15:20～
- ◆ 意見交換・質疑応答 (16:10～

### 4. 閉 会 16:30

- ◆ 閉 会

◆環境活動登録団体 ecoワーク発表会 参加団体名簿

(敬称略)

団体名	役職	参加者氏名
一般社団法人 エコまちフォーラム	コンシェルジュ	筒見 敦子
	コンシェルジュ	太田 麻衣子
中央区環境保全ネットワーク	代表	岸本 裕子
	副代表	篠原 薫
	顧問	嘉納 愛子
		徳村 孝行
特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会	事務局長	赤木 誠司
特定非営利活動法人 育てる芝生～イクシバ!プロジェクト	代表	尾木 和子
	イクシバ!ハマスゲ・コンポストリーダー	藤江 久司
狼と森の研究所	代表	朝倉 裕
	前代表	鈴木 徹治
	研究員	南部 成美
一般社団法人 和ハーブ協会	副理事長	平川 美鶴
一般社団法人 日本資源環境保護促進協会	次世代 エネルギー推進局	梅田 裕大
	サステイナブル 推進局	向笠 柚紀
	理事	飯田 宏司
	理事	辻濱 文子
	理事	白岩 弘平
	理事	甘利 廣

## ◆ 環境活動登録団体 eco ワーク発表会 議事録

### 【 開 会 】

・ 挨拶 中央区環境土木部環境課長 武藤智宜 氏

皆様こんにちは、中央区環境課長の武藤と申します。どうぞよろしくお願いいいたします。皆様お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、皆様には、日頃から本区の環境行政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

eco ワーク発表会は、昨年、一昨年と新型コロナウイルスの影響からリモートで開催させていただきました。本日3年ぶりにリアルで開催となります。皆さまの活動発表を直接お伺いできる機会をいただけたことを大変うれしく思っているところでございます。実は、私は環境課長となって3年目ですが、職員を含めてリアルで開催するのは初めてでございます。このように多くの方にお越しいただけていることを有難く思っております。

環境情報センターは、平成25年に開設されまして、来年度で10周年を迎えます。10周年を記念致しまして、愛称名の募集、デジタルコンテンツ、展示パネルの更新なども予定しております。10周年を契機にこれまで以上に環境問題の関心や活動の幅を広げていくための取り組みを推進していきたいと思っておりますので、今後も引き続きご協力のほど、よろしくお願いいいたします。最後に皆様のご発展とご活躍をご祈念申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうか、本日はよろしくお願いいいたします。



## 【活動発表】

### ・発表 1 『中央区で生まれた“コミュニティ芝生”という芝生の育て方』

特定非営利活動法人 育てる芝生～イクシバ!プロジェクト

尾木 和子 氏

皆さんこんにちは、「育てる芝生～イクシバ!プロジェクト」で代表をしております、尾木和子と申します。

「中央区で生まれた“コミュニティ芝生”という芝生の育て方」、中央区に生まれたということとコミュニティ芝生というのがキーワードです。

まず、最初に私たちの活動を説明します。イクシバ!プロジェクトは、地域で芝生を育て、芝生が地域を育てるというテーマで、毎週、日曜日、

9時から10時まで、晴海通り沿いの黎明橋公園というところの2,000㎡の芝生広場、その芝生を地域のみんで育てています。今年10年目になります。2013年に任意団体として、晴海黎明橋公園が改修工事されて芝生広場ができた、そのタイミングで設立しました。昨年、NPO法人化しております。年間の活動回数は55回位、毎回参加してくれる区民の皆さんは20人から30人、年間参加人数は延べ人数で770人位が参加している活動です。ボランティア団体です。

なんで芝生なんだろうということをご説明します。皆さん芝生は芝生として、どうってことはないという人もいると思いますが、そのメリットを改めて説明させてください。まず、裸足で歩けます。裸足で歩ける外ってないですよ。アスファルトは裸足で歩かないですよ。ゴロンと寝ころべます。そんな場所、外にはないですよ。自然のもので、緑が「ブーン」と香ります。写真の子どものように寝ころんで「スリスリ」とすると「ファー」と香ります。それが家の近所にあるって素晴らしいですか。週末のお昼ごはん、家で食べないでサンドイッチ持って外で食べようかっていうようなことができるのも、芝生ならではのことで、目にも優しいです。天然芝はいろいろな表情を見せてくれます。黎明橋公園は、今も緑色です。だいたい芝生は冬になると冬枯れしてしましますが、冬枯れの前に冬芝の種を撒いていますので1年中緑を実現しています。

絆創膏もいらないということですが、園庭を芝生化した幼稚園の先生にインタビューに行くことがありますが、こんなことをおっしゃいます。怪我をしなくなった。怪我しなくなったというのは、「コケ」なくなったわけではありません。「コケ」するんですけども怪我に至らないのです。アスファルトを全速力で走ると怖いと思うのですが、芝生で「コケ」てもクッションがあるので怪我をしないのです。血がダラダラとかならないと、幼稚園の先生としては思いっきり体を動かせるようになったとか。恐怖心が無くなったとか。運動会で徒競走をして「コケ」た瞬間、気分がもう「ショボン」となってダメな子も「スクット」起き上がって走り出す。ということが教育的にはすごく嬉しいという声を聞きます。

皆さんに知っていただきたいと思いますが、芝生は密集しています。森の葉と同じように新芽、新芽が出て、さらにカットカットするのでどんどんどんどんCO2を吸収しようとしています。



森林に近いCO<sub>2</sub>が吸収できるという学説も出ております。「アガタ先生」の論文に書いてあります。

メリットばかりでなくデメリットはあります。それは世話に手間がかかるということです。だいたい皆さんの家の近くにある芝生はきれいではないと思います。荒れていると思います。それはなぜかという、芝生自体が高頻度の管理を要求する植物だからです。しかしながら、それを実現しようと思うと、すごくお金がかかってしまいます。中央区だけの問題ではなく、これは日本芝草学会の部会でも毎年言われていることですが、せっかくきれいにした芝生の公園が翌年から劣化が始まって3年で無くなる。雑草に駆逐されて無くなると言われていています。ですからその手間のかかる作業を私たちボランティアが力を合わせて育てている訳です。

そのデメリットが転じて、皆が育てていれば、こんな良いことがあります。たとえば自分たちが育てているのでどういう管理しているかが良く見えるので、すごく安全だということが分かるのです。除草剤を使わずに、自分たちの手で作業をして雑草を取っています。後は、コミュニティができるということです。知らない人が集って仲良く作業をする。晴海というところをご存じかもしれませんが、どんどんどんどん新住民が増えています。晴海フラッグもできて、人口が15,000人位、増えると言われていています。最近、日本全国で言われる希薄化した地縁、弱体化した地縁組織というのがすごく問題になっています。町会に成り手がいないという問題が出ているのです。中央区の場合は、町会がしっかりされているところが多いので、余りそれは問題ないのかもしれませんが。晴海で言うと新しいマンションにポンと引っ越してきた新住民と、古くから町を創ってきた旧住民の人が交流する場があまりないと良く言われますが、「イクシバ」は全然関係ありません。ごちゃ混ぜで、みんなで同じ作業をしています。引っ越してきた子どもたちが公園を大事にするということは、皆の庭を大事にするということ、自分の庭を大事にすること、それがやがて郷土愛に繋がったりします。芝生は手入れをすればするほど、コンディションが良くなりますので、たくさんの人に来てもらいたい。誰も排除しません。なので、皆の居場所と成りうる場所です。たとえば独居高齢者の例だとか不登校児の例とか色々ありますが、毎回、毎回、奇跡のような人の絆が繰り広げられて、私は傍で見ていて、泣きそうになるくらい感動しています。一つひとつご紹介したいところですが、時間の都合がありますので、後ほど聞いてください。

私たちはどんなことをしているかという、芝刈り、雑草取り、これがメインです。芝刈りは、芝生育ての花形作業で、刈ったそばから「プーン」と緑の香りがして、刈っていると面が揃ってくるので、すごく綺麗になっていく姿を実感します。その姿に癒されますし、人のためになっているなって自己有用感まで生まれます。芝生は刈れば刈るほど根が丈夫になって、密に育ちます。雑草取りも通常の芝生の維持管理ではよく除草剤を使いますが、うちはゼロです。全て手作業で取ります。だから安心して、赤ちゃんがハイハイできる芝生だということで、皆に愛されています。雑草の仲間は、多種多様でそれを知っているのは、理科的な学びになって楽しく、植物の生存戦略の最前線を目の当たりにしているなって話したりもします。地面に座って、土を触って、スマホとかPCとかデジタルだらけの毎日の癒しといいますか、デジタルデドックスといいますか、なぜか真夏の暑い日の作業でも、終わったらスッキリしているというようなことは、毎回、実感しています。後、「ゴロン」として「ゴロン」裏、「ゴロン」表、大人になるとなかなか難しいですが、「はい、皆でゴロンしよう」というと1週間のストレスも疲れもいっぺんに吹き飛ばすような、すごく癒される作業です。なので、人のためにとか、無理している人はひとりもいません。楽しいからやっているっていう人ばかりが集っています。

私たちの年間計画は、芝刈り回数24回、一般的に普通の公園が、業者に委託して4回です。ですので、その数倍かけているので、きれいな芝生が維持できているのかと思います。

ということで、2019年には東京都協会賞の奨励賞を頂戴しました。やはり生き物なのでコンディションの良し悪しがあります。これがボランティアも力強く育つ契機にもなりますが、事件が起きました。7年物に育てた根っこの深い天然芝が無くなりました。コロナの影響です。どういうことかということ、ステイホームで休校、マンション内のジムも閉鎖されて、公園に来てても遊具は使用中止。人々は何に向かうかということ、芝生だったのです。芝生って強いように見えて、実は弱いので、使われすぎて、擦り切れて裸地化してしまいました。ものすごくショックでした。行政の方にも相談しましたが、すぐに予算化はとても無理な話で、早くて2年後と言われて、2年間このままでいくか皆で相談したところ、「いいや」ということになり町会とイクシバでお金を出し合い、苗を買って、3,000個の穴を掘って、チラシを配ったら120人位の近隣の人が集まり植えました。そうしたら苗が点々と育ち、隣の苗と手を繋ぎ出して一面緑になりました。ふかふかになりました。ここに至るまで、毎日水をやり、週末には芝刈りを行い2、3か月で緑になりました。ずーと裸地のままだと心が痛かったですが、希望の姿を皆が見られて誇らしく嬉しい、コロナ禍でした。

今年のニュースですが、良いコミュニティもできる、良い芝生もできることが分かりましたので、大胆にもNPO法人化しました。日本で唯一の活動ですが、できるだけたくさんの方に広めていきたいと思っています。

緑の都市賞ですが、実は緑界隈の人には結構有名な賞で40年以上前からある賞です。こちらをいただくことができました。後、コンポストを始めました。これまでは芝カスを焼却処分していましたが、やはり子どもたちも来ている手前、「良いことをしてるね」と言った後で、焼却処分しているのはどうかということで、コンポストを始めました。

#### 【緑の都市賞の記念写真の説明】

自慢ですが、右側は、国土交通大臣の代理、副大臣の元近鉄バッファローズの石井さん、私は元近鉄バッファローズファンでしたので、「ワー」と思いました。左側は環境大臣の代理の局長さん、真ん中は、佳子様。佳子様にもお会いできたんです。

### イクシバ！ハマスゲ・コンポストリーダー

晴海連合町会晴海自治会環境整備部 藤江 久司 氏

コンポストですが、芝カスを単に処分しているのがもったいないと思ひ、中央区水とみどりの課に相談したら快く受けていただき、すぐに作っていただきました。区にお世話になっているだけでなく、自分たちでも手を掛け、フタを作るなどをしました。中央区からは黒土をトラック一杯分いただきました。築地の大野米店からは米ぬかを提供していただきました。セブンイレブンベイシティ晴海店からは、匂い消しのためのコーヒーカスをいただき、作業ができるようにしました。刈った芝生は、



ごみ袋(45L)で8から10袋位。期間中、約150袋をコンポストで処理ができました。芝カスと黒土と米ぬか、コーヒーカスを入れてフタをしておきます。大勢の子どもたちが興味を持ち、見学に来ました。コーヒーカスを使ってもかなり匂いが出るので子どもたちに「くさいくさい」と言われましたが、「どうなってる」と見学に来てくれましたので、作って良かったと思っています。匂いがすごいので、カーボンファーミングというやり方があるということで、習ってきま



した。青い芝をそのまま使っていましたが、1回芝を乾燥させたものでやります。匂いが出ないということで、今年試してみようと思っております。このやり方だとCO2を出さないということで、少しは環境に還元できるかなと思っております。

尾木 和子 氏

芝生の育成には、区で買っていた化学肥料を使っていたのですが、米ぬかをたくさん寄付していただけたので、これを撒くだけとか、コンポストを使うとか、分割してどれが一番良いのか実験しようと思っております。バクテリアとか微生物が土壌に多いほうが根っこが健全に長く育つと言われておりますので、より環境負荷が少なく、さらに私たちも楽しめるものがあれば良いと思っております。

来年度の計画は、作ってばかりではなく、皆で収穫祭のような楽しめる芝生にしようと。後、Jリーグの清水エスパルススタジアムに日本で有数のコンディションで20年間張り替えをしていない芝生があります。そこの方に指南をしていただいて見学をします。これは、イクシバの会員限定のツアーなので、よろしければ会員をお待ちしております。後、私たちが活動を広げていくうえで担い手が必要ですので、養成講座として芝生学会から講師をお招きした講座と、どのようにしてコミュニティと掛け合わせて作っていくかという、コミュニティ講座の2本立てを計画しております。ご清聴ありがとうございました。

## ・発表 2 『絶滅したオオカミの謎を探って』

狼と森の研究所

朝倉 裕 氏

狼と森の研究所の朝倉と申します。宜しくお願いいたします。今年度の活動をご報告するということですが、やはりコロナの影響でたいしたことはできず、三項目だけになりました。

まず、『絶滅した狼の謎を探る』という本を出版しました。それから東京都市大学でここ7～8年ずっとやらせていただいている、環境概論の講座で100分ほど講義をさせていただきました。それから酪農学園大学の星野研究室というところとコンタクトがありまして、これは講義の中に複数の専門家が加わって講演するという形でしたけれども、これもオンラインでやらせてもらいました。

この内の出版した本の概要についてお話したいと思います。これはこの中央区立環境情報センターで2回やらせていただいた企画展示が元になっております。令和元年度の4月に「絶滅した狼の役割を探る」という展示を1ヵ月やらせてもらいました。次年度も5月に続けてやるはずでしたが、コロナ勃発というようなことで2022年3月にずれこみまして、「絶滅した狼の謎を探る」というタイトルで約1ヵ月、このホールで展示をさせていただきました。この時に考えた企画内容を更に再考して、書籍化したものです。

その概要についてお話します。まず、最初にこのピラミッドを思い出してください。ごくごく単純化した形ですが、食物連鎖の構造はこういうピラミッド構造になっております。ところが、



今の日本のピラミッド構造というのは1番上の肉食獣が欠けていて、草食獣が極めて多くなっていて、植物は減っているという状態です。これが、ここ20年くらいの間だいたい報道もされるようになりまして、新聞やテレビで時々見かけるようになりました。新聞は全国の新聞を取るともうほぼ毎日のように出ています。その内容は、初期は農林業被害、農業被害です。農業被害とその防除という内容でした。最近では鹿との交通事故とか、森林の被害とかまたはジビエ、狩猟振興という内容になっていることが多いです。

しかし、もっと怖い問題があると私たちは考えております。それは何かというと、例えば南アルプスの北岳では左側が2001年のお花畑、まだ健全なお花畑の写真です。10年経たない間に右側のような状態になりまして、お花畑壊滅、南アルプスの3,000メートル級のお花畑がほとんどこのような状態で元の姿は全く無いというようになっています。それからこれは南アルプスの前衛の山梨県の楡形山というところですね。カメラマンは同じですけれどもアヤメの群落が壊滅しました。それからちょっと遡って、1984年に日光白根山で撮られたシラネアオイ群落が10年後の94年に同じ場所で全く無くなっている。それからかなり時間がたちましたが、いまだに回復はしておりません。そしてこれはちょっと時間の隔たりがありますが、長野県の霧ヶ峰の高原の端にある車山の群落、ニッコウキスゲですが、それが今は、僅かに電気柵で守られた部分だけ花が咲くというような状態です。そしてこれも50年程の時間の経過がありますが、奈良県の大台ヶ原という関西の登山観光地ですけれども、この森林には90年代に（被害の）兆候が出始めて、今は白骨の木の林になっております。更に10年経っていますので、この枯れた木が今は全部倒れて芝生のような笹の群落になっています。ここでは野鳥も激減しているというのを、奈良野鳥の会が確認しております。つまり怖い事というのは、生物多様性の激減という現象が今起きている、現在進行中で起きているということです。

更に山の斜面の下草が鹿に食べられてしまうと、斜面から土が流れ出したり、石が流れ出したり、土石流の恐れもあるような人間社会への影響も懸念される状況です。これも各地で起きています。私たちはこれを大きく肉食獣、つまり日本では狼が不在であることが原因だという風に考えておりまして、その知識を普及させたいという風に思っております。この前提で、この本を書いたのですが、テーマの「謎」とはこういうことです。日本に生息していた狼はどういう動物だったのか、そして日本人の理解に誤解はないだろうかという謎もありますが、日本では生態系の基本構造というものが理解されていない。これはいったいなぜなのだろうかというところが私の持った疑問であり、謎です。

ではどういう内容にしたかということ、生態学という学問、構造、歴史から考えました。生態学というのは繋がりを解き明かす学問であります。まず、種の内部の社会、それから地球環境との関係、そして生息環境との関係、他の種類の動物との関係などの繋がりをテーマにしております。それから人間との関係、大まかに言ってこう言った内容を持っているんですけども、日本ではまず京都大学が種の内部の関係を深く掘り下げました。猿の研究です。そして北海道大学がヒグマと人間との関係を掘り下げて研究しております。アメリカはどうかというと、他の種との関係を調べてきた訳です。日本に関係するところで言うと、狼と鹿の関係で顕著な成果を上げております。

ところが日本とアメリカの生態学の間には溝がありまして、日本の生態学にはこのアメリカの種間関係の研究成果は入ってきておりませんでした。（情報が入ってきてからも）2000年くらいまでは拒絶反応が見られる感じでした。なぜかということ、歴史に原因があります。欧米の生物学はリンネの博物学から始まって、フンボルトの探検が生物地理学、つまり地球環境との関係に発展し、ダーウィンの進化論は生息環境や他の種との関係を掘り下げるきっかけになりました。先程

の食物連鎖のピラミッドに関してはエルトンという人が発見して、発表したのが最初です。

その次に食物連鎖の構造について 1960 年に「緑の世界仮説」という説を提出した人たちがいます。つまり、食物連鎖の中では肉食獣の役割が一番重要だと。肉食獣がいてくれるお陰で世界は緑なんだという仮説です。それ以降この肉食獣の役割というものがアメリカでは掘り下げられて研究されてきました。

日本の生態学の歴史では、まず、博物学という点では、江戸時代の本草学がかなりいいところまでいっていましたが、明治時代にこの本草学は断絶されて、欧米から、特にアメリカから生物学が導入されました。なので、生物地理学とか進化論とか食物連鎖あたりまでは、素直に日本も受け入れた歴史があります。

その後、生物学が発展して、1970 年代から大型の動物の研究が始まります。60 年代に猿の研究が始まって、70 年代に鹿の研究が始まる、ヒグマの研究もこの頃です。この時代に、なぜかアメリカの情報が入ってきていません。なので、ここで全く断絶があったという風に私は考えました。

このころ、欧米の、特にアメリカの研究成果は生態系の基本構造をこういうものだと理解したのです。草食獣は肉食獣に捕食されて数が調整される、肉食獣がいなければ増え続ける。そして、植物は肉食獣が草食獣の数を調整してくれれば多様になる。ところが肉食獣がいないと草食獣が増えて、植物は減少すると。これが生態系の基本構造です。これは欧米ではこの基本構造には共通理解があります。

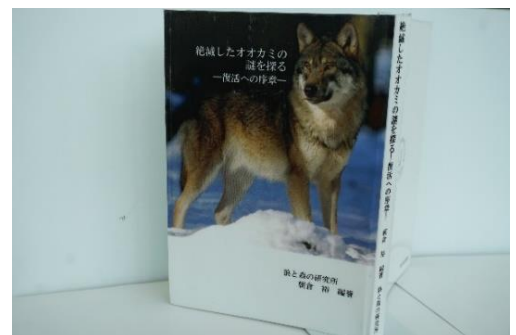
例えばEUの野生動物保護政策は、生息地指令という（野生動物保護の）法律が基礎になっています。その法律にある狼の役割の理解はこのようなものです。

オオカミはヨーロッパ固有の動物であり、生物多様性と自然遺産の不可欠な一部である。上位捕食者として、生態系の健全性と機能に貢献する重要な生態学的役割を担っている。特に、選択的捕食を通じて、捕食する種（通常、ノロジカ、アカシカ、イノシシなどの野生の偶蹄類）の密度を調整し、その健全性を高めるのに役立っている。これが欧米の政策の共通認識です。

しかし、日本ではこれが理解されていません。それはなぜだろうかという謎を私はこういう風に解きました。

まず、ベースには明治時代以降摺り込まれた畜産文明の偏見がある。つまり赤ずきんちゃんのように狼は人を襲うという偏見です。そして学問の世界では、生態学者たちは 70 年代に始まった大型動物の研究で捕食者のいない自然を研究していました。それからお見せしたように偏った研究分野（の研究）であった。さらに現在の大御所たちの学んだ自然、学問というのは、30 年以上前のものであって今の最新の状況は反映されていない。これがひょっとしたら理解のない原因ではなかろうかと。そして、その政策を実行する官の世界では、現在幹部にいらっしゃる方たちの受けた教育は 30 年前のものである。これが政策に反映する生態学の偏りの原因ではないかということです。それとは別に、ニホンオオカミを追いかけている（生物学とは別の分野の）研究者たちやジャーナリストもおおまかして、この方たちの著作を読むと生態学や生物学という分野の学問の知識はない、そして現在の環境が置かれた状態、鹿の激増などの情報にはあまり関心がないのではないかと、また文献至上主義で研究をされている。というような内容で本を書きました。

アマゾンでだけ購入できますので、もし興味があればポチっとしてください。Kindle でも配信できます。ダウ



ンロードできますので、以上で発表を終わります。ありがとうございます。

### ・発表 3 『循環型社会の形成を目指したSDGsへの取り組み』

一般社団法人 日本資源環境保護促進協会

向笠 柚紀 氏

大変お待たせいたしました、一般社団法人日本資源環境保護促進協会、JREPPA のサステナブル推進局職員の向笠柚紀と申します。宜しくお願いいたします。

私ども一般社団法人日本資源環境保護促進協会について、ご説明をさせていただければと思います。一般社団法人日本資源環境保護促進協会、私も長くて言えないですけれども、長くて覚えきれないかと思っておりますので、その英語の頭文字を取

って、JREPPA、J・R・E・P・P・A（ジェイリップ）と覚えていただければと思います。

私どもは令和3年に代表の青島によって設立された新しい団体になります。ガイドにもある通り、持続可能な社会を目指し、ここにもありますがSDGsのバッジ、皆さんもご存知かと思いますが、このロゴ、持続可能な社会を目指し、環境、地球環境を壊さず資源を使いすぎず、未来の世代に平和に豊かにずっと生活をし続けられるようその具体的解決策を社会に普及させていくという理念を目的に活動しております。主な活動内容といたしましては、セミナー、交流会、視察会、国産材を使ったキュービックプレミアムハウスの活用、自然エネルギー活用に関する事業の推進などを行っております。この辺りにつきましては、次のスライド以降で詳細をお話させていただきます。

それではここから本題の私どもの取り組み内容に移らせていただきます。まず1つ目は、エンジェルボードでございます。エンジェルボードと聞いて何か思い浮かぶ方はいらっしゃいますでしょうか。実はこの会場にいるほぼ全ての皆様が間違いなく使ったことがあるであろうものでございまして、現物が出ていますが、何に使うか分かる方いますか。「大きいまな板」ありがとうございます。分かっているけれど、そういつて答えていただいて。このように使います。学校の机です。この右上に名前が書かれていて、ロゴがついているのですけれども、このような形で使われます。エンジェルボードとは学校で使用される天板、机の天板のことです。

子どものころ、小学校の6年間、1日の大半を過ごす学校という場所で毎日、木、木材という天然素材に触れてほしいという想いから始まりました。私どもの活動のひとつにもあります、国産材活用の推進としてこのエンジェルボードでは、群馬県川場村産の杉の木が使われています。既存の机の天板にはめ込むだけで使えますので、無駄な廃棄物も発生しません。皆様が良く見るこういった木の天板に更に上からはめ込むような形ですね。大体皆様がイメージされる天板です。机は何からできているかご存じでいらっしゃいますでしょうか。実はこちらはメラミン化粧板と呼ばれるもので、紙と樹脂でできたプラスチック板の事を指します。これ木の柄に見えるので、私もそうだったのですが、木製だと思われる方はとても多いと思いますけれども、あれは紙に色や柄を印刷することによって、木目に見せているプラスチックだったのです。

この写真は実際にエンジェルボードが使われている川場小学校の様子です。またこのエンジェ



ルボードは、ただの学校の机として使われるだけではありません。エンジェルボードの更なる活用法といたしまして、小学校の卒業記念に自分自身の決意を記したメッセージを印刷してそのまま贈呈しています。私自身小学校時代は先程投影したメラミン化粧板を使っていたので、自分の身長が伸びたらまた交換してもらってこれが自分の机だという意識はほとんどなかったと思います。そのせいか、子どもながらの悪いノリで乱暴に扱ってしまったり、落書きをしてしまったりということもあるかなと思います。これは入学当初から名前が彫られているものを渡されるということで、すごく愛着を持って使える机になっていて、もちろん小さい子どもですので、小さな傷をつけたり、乱暴に扱ってしまう子もいるかもしれません。その傷も含めて将来実家に飾られている机を見た時に、地元の温かさ、日本の豊かな資源が生み出した木材という有難みを感じられるものとなっているかなと思います。ちなみに背面はこのようになっていて、バネがついていてガシャンとはめ込むだけで使えるということになっております。

もう1つの主な活動でございます、川場村ツアー、これはエンジェルボードの木材が使用されていた産地でもあり、そんな川場村に東京都内在住の方を中心とした視察会を開催しています。皆様、川場村って聞いたことありますか？ありがとうございます。うなずいてくださっている方も多いと思いますが、群馬県利根郡川場村です。川場村は群馬県の北部に位置しておりまして、近くには沼田市や片品村などがあり、東洋のナイアガラと呼ばれる吹割の滝などが近くにあります。そんな川場村は人口3,000人程度の小さな村ですが、2020年に人口は150名増加しているのです。そんな川場村はあるものが日本一となって連日テレビで取り上げられています。それは施設長も何度も行ってくださっているという道の駅「川場田園プラザ」でございます。川場田園プラザ道の駅、旅行サイトのじゃらんが2022年に行った全国道の駅グランプリで見事1位を獲得しました。土日になると約900台の車を止められる7つの駐車場が、止めるのが困難になるほどお客様が来場しています。2022年には250万人を超える人が訪れました。コロナ禍においてもその人気は衰えることなく多くの方が来場しております。



そんな川場村の様子はこちらでございまして、こちらは朝10時の様子ですけれども、お客様で既にもう一杯となっていて、家族連れでしたりとか、ツーリング仲間、ペットと一緒に来る方、老若男女問わず、様々な方々がいらっしゃっています。また川場村には国際大会で10年以上連続金賞を獲得し、ギネスにも認定され、天皇陛下にも献上されている、幻の米「ゆきほたか」があります。「ゆきほたか」を使ったおにぎりを販売している、「かわばんち」というお店があるのですが、「かわばんち」は都内から2時間かかる場所にも関わらず、朝から「ゆきほたか」で握ったおにぎりを座って食べている方が大勢いらっしゃいます。もちろん道の駅として川場村でその日の朝に採れた野菜も数多く置いてあります。農家の方々が直接野菜を店頭に出すに来ますが、人気過ぎてすぐに品切れになってしまいます。ITを活用して、農家の方がリアルタイムで野菜の残りの状況を確認して即座に野菜を店頭に出せる仕組みなども作られています。野菜も非常に家計に優しいお手頃な値段ですので、店内にはいつ行っても混んでいて、コロナによる人数制限で店の外に行列ができることもしばしばあるほどです。この右の写真はふるさと納税の自動販売機ですね。このふるさと納税の自動販売機って私あまり馴染みがなかったのですが、結構広がっている、全国で広がっているのです。この川場村は全国でも先駆けて自動販売機のふるさと納税を行ってまいりました。その他にも整理券が無くなるほどの人気なパンであったり、

ヨーグルトなどの乳製品、地ビール、食品だけではなく工芸体験だったり、子どもも遊べる遊具、無料で摘めるブルーベリー園などの大人も子どもも楽しめるスポットとして、大変人気となっております。

そんな川場村のキャッチコピーは、田園理想郷、農業と自然の里と掲げています。川場村は面積の約83%が森林を占めておりまして、夏は登山やキャンプ、冬はスキーと四季折々の楽しみ方があります。そんな自然豊かな里山が都内から車で2時間ちょっとで行け、東京から近いけど自然を感じられる田舎っているところでもって人気になっております。

この自然、左の写真は川場田園プラザの端からの景色でして、右側にあるのは釣り堀です。奥の山は武尊山と呼ばれる山なのですが、紅葉シーズンで綺麗に色づいています。また、反対側には赤城山や谷川岳などの山々も見え、非常に雄大な山々に囲まれた景色が見られると思います。右の写真は田園プラザより少し山を登った先にある薄根川です。下流は利根川と合流するところになっておりまして、とても空気が澄んでいて、マイナスイオンで川のせせらぎを感じながら過ごすことのできる1日というのは格別な時間になっています。こんな豊かな自然を有する川場村を視察会としてツアーを組んでいるというのがもう1つのこのJREPPAの活動になります。

これは川場村にあるリンゴ農園なのですが、農園の1つの木を所有しておりまして、リンゴ狩りもしました。右後ろに、ちょっと小さいですけども青いバケツに入っています。リンゴがいっぱい入っていると思います。それでもなお、まだリンゴがいっぱい実っているということで、結局ひとり10個採っても、採りきれないくらいのリンゴがいっぱい育っているということです。皆さん中々する機会のない体験に心躍らせながら楽しまれていました。この視察会はただ自然が豊かな川場村を感じていただくだけではなくて、もちろん私どもの活動を知っていただくための視察も兼ねております。

この写真はその1つですけども、私どもが行っているキュービックプレミアムハウスの展示場が川場村にはございます。左側のものは茶室で、右側のものはシアタールームになっております。一看すると、コンテナを使っているようには見えないと思うのですが、コンテナを使っているキュービックハウスでございます。シアタールームはこちらですね、ドアを開けるとこのような内装になっています。内装は全て国産材を使用しており、外側も国産材を使って、コンテナの上から塗装をしております。中央にあるのがモニターでその両脇にあるのは木材を使ったスピーカーです。天井も木材で内装はされておりまして、国産材をふんだんに使ったシアタールームとなっております。開放しながら大音量で映画や音楽を楽しむことができるというのも田舎ならではの贅沢な使い方ではないかなと思います。実はこのシアタールームは、2月10日まで東京ビッグサイトで開催されているホテルショーで見ることができます。出典しておりますので、是非お時間ある方、ご興味のある方は見にいらしていただければと思います。

このコンテナハウスの展示場のすぐ隣に私たちが川場村に導入した、バイオマスボイラー装置がございます。川場村は、エネルギーの自給自足とごみを出さない村を目標としておりまして、この中で自然エネルギーに注力しております。そんな川場村は、木材チップを使ったバイオマスボイラー、生ごみなどを使ったバイオガス発電にも取り組んでおりまして、写真はその循環型システムの装置になります。ここまで来るには代表の青島が多くのご苦労や苦難を乗り越えてきたわけですけども、そのおかげもありまして、川場村の木材の消費量は、約30年で3,000 m<sup>3</sup>から4万 m<sup>3</sup>と10倍以上に増えております。

このように川場村の理想郷の姿を様々な角度から感じていただく活動として、川場村ツアーを春と秋に2回行っています。それ以外でも川場村を見てみたいという方が非常に多く、去年は約190名の方々に川場村、そして私どもの取り組みをご案内いたしました。エンジェルボードは、

2008年の導入開始以来小学校、小中学校の入学に合わせて、年間60台ほどを導入しております。

本年は、今まで行ってきた活動は継続していく一方で、昨年行うことのできなかったセミナーをここで是非開催させていただければと思っております。また、昨年は新たに役員を1人お迎えし、一般社団法人として入会体制を整えて参りましたので、評価委員として新たに関わっていただく方、携わっていただく方をどんどん増やしていき、動きを加速させていきたいと考えております。

最後に補足させていただきます。本日のこの発表ですが、群馬県川場村というところをクローズアップさせていただいたのですけれども、元々私どもの活動というのが群馬県の川場村からスタートしておりました。その活動を、この東京に広めていきたい。都会の中でこういった理想郷を掲げている村々と繋いでいくことによって、こういった環境に関する知見というか、皆さんに認識していただくことを広げていきたい、という想いで令和3年に、この会員として設立させていただいたという経緯がございます。まだ人数も体制も揃っていない中で、まだやれていることが限られていますが、今後、中央区ないしは、こういった皆様のお力を、皆様から色々勉強させていただく中で、色々中央区でも活動したいと思っております。来年は是非、例えば仮にこの場で発表させていただくとして、中央区での活動というのを何か残すことができたらと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。私どもの発表は以上とさせていただきます。ご清聴いただき、ありがとうございました。

## 【 交 流 会 】

### ・ 自己紹介・活動報告

一般社団法人 エコまちフォーラム

筒見 敦子 氏

一般社団法人 エコまちフォーラムの筒見と申します。宜しくお願いいたします。いつもは、専務理事の中丸が常駐しメインで活動していますので、お馴染みの方もいらっしゃると思いますが、本日は事務を担当しております私が、中丸の代わりにお伝えしたいと思います。

平成25年6月登録ということで丸10年。このお隣で活動しております。元々、一般社団法人中小建築物省エネ化フォーラムという長い名前でした。名前の通り、この地域の中小企業の方へ省エネを広めるという目的で設立いたしました。現在、会員が70社近くになっております。企業の方と行政と、学校、大学の先生などを中心に活動しております。講演会などをやってまいりました。また、ビルのデータを計測して、どういふ点の省エネを進めたらよいかというのをアドバイスしております。

大きな活動としては講演会がありました。今までは100人以上いらしていただくようなものもあったのですが、何しろこの数年間コロナということで、それができなくなってしまって、ZOOMを中心に活動しております。一応そんな形で続けております。また、講演会を開催できるように



なりましたら、広くやっていきたいと思っております。企業と行政と大学関係ということで専門的な内容が多いですが、本も出版して置いてありますので、もし良かったらお立ち寄りいただければと思います。また引き続き、宜しくお願いいたします。

## 中央区環境保全ネットワーク

岸本 裕子 氏

こんにちは。中央区環境保全ネットワークの岸本と申します。今日はこちらの会からは副代表の篠原と、後ろの聴講席の方で喜納とそれから徳村が来ております。宜しくお願いいたします。

環境保全ネットワークは、2002年に会を立ち上げて、およそ20年活動を続けております。我々は中央区の環境問題を考えるときには、市民というか民間だけでは力及ばず色々なことが中々できないという風に思いまして、企業、行政、それから他の団体の方々にお力をいただきまして、区民の皆さんと共に活動を続けてきております。



活動ですけれども、一番の柱となっておりますのが、「子どもとためす環境まつり」というのがございまして、2004年からこのイベントを続けております。今年度、第19回という形で佃島小学校の方で10月にイベントを開催いたしました。それ以外に、見学会、研修会などを行っております。また、一昨年から檜原村の「中央区の森」に行きまして、そちらの方で環境の活動をさせていただくという形で、一昨年は植林、去年は下草狩りという形で森を守ることの大切さを知ろうという募集型のツアーを組みました。

今日は皆さんのお手元に「子どもとためす環境まつり」WEB版のチラシを配布させていただきました。この環境まつりですけれども、今までは中央区の小学校を会場にしまして、年に1回大体秋が多いですが、そこで民間の団体様、企業様、そして行政の皆様ブースを持っていただいて、出展していただいて1日子どもたちや区民の皆様に環境について体験しながら学習し、環境についての大切さを学んでもらおうというイベントを行ってきています。先程も申しましたように、今年度は佃島小学校で10月1日に開催いたしました。こちらの方の今日のチラシですけれども、こちらはWEB版という形でYouTubeに「環境まつりチャンネル」というのを設けて、出展団体の皆様に動画を作ってもらい、それを流しております。

「子どもとためす環境まつり」ですけれども、コロナで2020・2021年ですね、できなくなりました。会場の学校も借りられず、コロナで皆さん自粛するっていう形になってしまいましたので、対面型のイベントはできないっていうことで、でもそれまでずっと16回続けてきたイベントでしたので、どうにかこれを持続させて何か継続できないかということを考えました。じゃあオンラインで皆様とまた環境問題について考えるきっかけを残していきたいっていう形で始めたのが第17回の時です。17回、18回とオンラインイベントという形でWEB版を続けて2年やりました。今年度は3年ぶりに会場開催ができたのですが、このWEB版の方も皆様に色々反響がありましたので、今年度もやってみようということで10月から行っております。こちらの方にQRコードがありますので、ここから入っていくことができます。約20本の動画がアップされておりますので、そちらの方を見ていただいて、出展団体の環境に関する関わり方、そ



して大勢の子どもたちにたくさん見てもらいたいと思って作っておりますので、是非ご覧になっていただければと思います。

それで、動画ですと一方的に流すってことで相手の、子どもたちの反響が分からない、リアクションが分からないってことがありまして、昨年からオンラインイベントっていうのを始めました。まだ2回か3回かってところで回数は少ないですけども、1日30分のイベントですが、今年も行います。2月15日、16日に、「はじめの一歩の会」の聖路加国際大学の山田先生、それから中央区の物知り博士っていう形で勝田さんから江戸時代のSDGsについて、そして第3回は3月8日に、「クイズで学ぼう、無洗米ってどんなお米？」っていう形で全国無洗米協会の出展団体様とのコラボでやらさせていただきます。というようなイベントもやっております。今日、皆様方ひとつひとつの団体のお話を聞いて、もうとても素敵な活動をなさっていることがよく分かりましたので、もし宜しかったら10月に第20回の「子どもとためす環境まつり」を予定しておりますので、そちらの方に出展団体としてご参加していただくような繋がりが皆さんと今日みたいな交流会で持てるといいなという風に思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。エコまちさんはこのWEB版の方にも出ていただいておりますので、是非ご覧になっていただきたいと思ひます。ありがとうございました。

## 特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会

赤木 誠司 氏

皆さんこんにちは。地中熱利用促進協会の赤木と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。我々前身団体ができたのが2000年ですけども、NPOになったのが、2004年でもうじき20年になるというところです。ここに登録したのは、25年の10月ですけども、ここができたばかりのときに、たまたま先程お話のあった中丸さんと知り合う機会がありまして、是非登録団体に参加されたらということで進められて登録させていただいたという経緯でございます。



我々名前の通り、地中熱の利用を促進するということで、地中熱とは「なんぞや」というような話をよくするのでですけども、ここでもイベントの時にでもよくそういう話をさせていただいています。詳しいことは今回置いておいて、地中熱というのは、皆さん普段暮らして空調を使っていますけれども、空調は主に空気を熱源にしているエアコンです。空気の代わりに地中熱を利用することによって省エネになる。それを広めようという活動をしているのが我々の団体です。

実はこのスクエアガーデン、この建物も地中熱を使っておりまして、この敷地のこちら西側、それと北側の敷地境界あたりに、実は地中熱を交換するための地中熱交換器というものがある埋まっています、それを利用して地中熱の空調をやっているという建物です。その他にも、庇を長く取って日射による影響とか、そういう風なものをできるだけ軽減して省エネするという省エネビルです。実はここには、そういった展示があるので、見ていただいたり、あと敷地の周りをちょっと歩いてみたらここに地中熱が埋まっているという目印がある訳ではないんですけども、実はここにあるんだなという風なことでちょっと思っただけならなという風に思っております。

我々の活動ですけれども、やはりコロナの影響というのは非常に大きく受けて、中々リアルでやっていた活動ができなかったという中でも、コロナの3年目になって段々と以前の活動に戻っていきつつあるということです。その中でコロナの中でリモートとかで対応できてきている面もありますので、そういったものもこれからの活動の中に入れていながらも、正常化していこうということでやってきたこの1年間だったかなということです。

特に、今年の我々の活動では特筆することが2つほどありまして、1つは活動報告書の一番上にある、第3回全国地中熱フォーラムです。まさに先週の水木金です。こちらの方をやっておりました。今までの協会の中で本当に最大規模のイベントとして、ENEX2023というエネルギーの展示会があるのですけれども、それを含めて十いくつの展示会が東京ビッグサイトの東1～5ホールで開かれています。そういう非常に大きなイベントと同時開催、そこに展示を出して、それから講演会ですね、東京ビッグサイトの会議棟の一番大きな会議場の1000人入るところで開催する。そういうイベントをやっておりました。残念ながらちょっとその講演会にお越しいただいた人数がちょっと少なかったのが残念だったのですが、展示会の方はコロナから回復してきたということもあり、コロナ前にも増して人がいっぱい集まってきているという状況になってきており、非常に賑わっておりました。協会と会社さん、団体と一緒に展示をしました。今回展示会の中で入口のすぐ脇って一番一等地の場所をもらって、そこに大きくブースを構えてやったのですけれども、そこに本当に人がいっぱい来てくれたという状況でした。この状況ってというのは恐らく2050年のカーボンニュートラルってことの追い風、そういう風なものもあって、皆さん再生可能エネルギー、我々は熱利用ですけれども、再生可能エネルギーにまた関心を持ってきていただいているという状況が伺えるような感じのイベントでした。

さすがに、先週やっていたところから今週というところなので、実は、今回ここで発表してくれってというお話もいただいたのですが、さすがにちょっと準備する暇がないということで、今回ちょっと申し訳御座いませんというお話をさせていただきました。

あとそれからもうひとつ大きいのは、報告書では中ほどにあるのですが、地中熱施工管理マニュアル改訂版発刊ということです。我々は色んな活動をやって、先程のような広報普及活動であったり、その中でやはり地中熱の技術を広めていくってということがあるということで、地中熱の講座を開いたり、それから施工管理の資格制度を作ったりとか、運営したりとかをしております。そういった人たちが参照するためのマニュアルを作っておまして、その改訂版を今年度出版いたしました。これも、最初に出たのが2014年ですが、そこから5年目途に見直してということが、ちょっと時間が経ってようやく今年度出たのです。そういう2つが今年度の活動の特筆するようなどころになっております。そういう風な活動を広めていますけれども手広くやっているものですから、業務、更に請負業務も色々重なっておまして非常に大変な状況でございます。細かいところには行き届かないなというところが今の課題でもございます。

来年はまた通常的な活動として、展示会とかイベント、それから講座、資格制度を計画していますが、できるだけ平常的な活動として続けられるよう体制を整えていく。特にコロナ等によって色々と改善すべき面があり、手続きの電子化とかそんなこともありますので、そういったところの体制の整備も進めていかなければいけないと考えているところでございます。協会の活動紹介としては以上となります。どうもありがとうございました。

再び、育てる芝生、イクシバ!プロジェクトですけれども、先程は活動の紹介をさせていただいて、中々全部はできなかつたですけれども、私たちはコミュニティを作っている。更にそれを芝生を中核として作っているという風に位置付けております。コミュニティをマネジメントすることではなく、マネジメントは芝生の生育の成果という風に思っております。そこをどこで勉強するかとか、どの知識を得るかっていうところは



活動報告の中の日本芝草学会という学術団体に所属しております。こちらで本当に日本の芝生会を代表する方々から知見をいただいております。今、運営委員として活動しておりますので、また更に色々な場所で芝生を見ることに恵まれて、そこでまたお話を聞いたところを講演の方にも還元しております。

その他、コミュニティというところでは、芝生以外の方が集うところもありまして、フリーマーケットを開催したりしております。コミュニティをまた芝生を良くしたいと思っていられる、つくば市に行って、そこでコミュニティ団体へのアドバイスとか、芝生づくりのアドバイスなどもしております。そんな感じです。

## 狼と森の研究所

朝倉 裕 氏

狼と森の研究所の朝倉です。宜しくお願いいたします。今日は3人来ておまして、私含めて。鈴木さんと南部さんです。狼と森の研究所は2017年に活動を始めました。任意団体です。中央区の登録ではこの3人でやっております。



活動の目的は、最終的に日本に狼を再導入したいというその議論を始めるといことですがけれども、その土台としてここに書いてあるように狼という動物の科学的な正しい情報を共有していくということを目的にしております。

なので、情報発信と収集が活動の中心です。手段として、HPとかブログを作ったり、メールマガジンを出したりしておりますが、Facebookが特に簡単にできるし、色々な情報が逆に入ってくるメディアですので、非常に重宝しております。昨年、狼と森の研究所の出版者としてアマゾンから出版が出来たということでこのノウハウが得られましたので、また年に1冊くらいは出していきたいと思っております。

今年のメインといいますか、情報を集めたいと考えているのはヨーロッパとアメリカのコロラド州です。今年はコロラドロッキーで狼の再導入が実施されますので、その情報や市民の反応とか行政の対応について情報を集めていきたいと思っております。そして、ヨーロッパに関しては、最近、EUとかヨーロッパ全域での野生動物保護の政策の輪郭がようやく見えてきましたので、それを色々と読み込んで情報を出していきたいと考えております。それともうひとつ、本の出版

をきっかけに、若干ですが、メディアの方とか、ウェブの関係の若い人とのつながりができ始めて、そこの展開も期待しております。 以上です。ありがとうございます。

質問（日本資源環境保護協会の会員の方）

お聞きしたいのですが、日本には狐がいっぱいいましたよね。狐が今現在かなり増えてきている。私の田舎は福島県ですけれども、原発でいわゆる狐がね、狐がなぜいなくなったか分かりますか？

（朝倉）

先程増えているっておっしゃいましたが。

（日本資源環境保護促進協会の会員の方）

いやなぜいなくなったか、狐がいなくなった原因です。狐がいなくなったのは、今現在は少しずつ増えてきたのですが、昔いわゆるネズミ退治で猫いらずをやったのです。猫いらずを食べたネズミを食べた狐がみんな死んじゃったんです。だからそれが原因で狐がものすごく減りました。ところが最近猫いらずを使わなくなったので、狐がようやく少しずつ増えるようになったんです。狩り主、いわゆる日本では狐がいっぱいいたんです。だから、狼以前に狐が一番今いるので、その辺の獲つけにどのような手助けをしているのですか。



（朝倉）

狐ですね、まず明治まで遡ると、明治維新からものすごく乱獲の時期がありました。これは毛皮が原因です。1頭捕ると、その毛皮を売って1ヶ月分の給料くらいになった時代があったのです。それで乱獲されて減ったと思います。第2に、そのネズミの猫いらずですが、毒をまいたってことも有りうる話だと思います。ネズミ退治は、昭和の20～30年代にかけて研究が盛んにされました。その影響はあると思います。それが増えてきたというのは餌が増えてきたということだと思います。それに関して私たちは何もタッチしていません。実際にどこかへ行って、何かをするということはやっていません。情報発信だけです。

質問（環境情報センター 日野=司会進行役）

ご著書中にある、鹿の数と復活できそうな狼の数の比較表を興味深く拝見しました。日本の狼復活の可能性というのはどうなのでしょう？

（朝倉）

自然界だけのことを考えれば、復活の可能性はあります。適当な数を配置すれば、増えていくし、それによって鹿も減っていくことは考えられます。ただ、問題は人間との関係。人間が寛容でなければ狼は生きられないと思います。そこが私たちの活動の焦点ですね。正しい正確な情報を共有することが大事だと思います。中々難しい話ではありますが。

貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。私どもは一般社団法人 和ハーブ協会と申しまして、私、副理事長の平川と申します。資料の中の最後の方に載っています。令和元年の登録になっておりますので、この団体の中では、まだ新しい組に入るのかなと思っております。

ハーブと言うと海外のローズマリーとかカモミールとかが一般的に思い浮かぶかと思うのですが、日本にもハーブと呼べるような有用植物があります。例えば、この中央区でもヨモギが生えていたり、皆さんもお食事でも紫蘇を召し上がったりと、暮らしの身近なところであって、それこそ最初にイクシバさん方がお話されていた雑草も和ハーブの範疇にはいるということで、私どもの定義ではそうさせていただいております。足元にある宝物をもう一度見直して、もう一度学び直し、また新しい価値を付加していけるような、そういったプロジェクトを全国でやらせていただいております。

中央区に関しては、最近だと12月に浜離宮にお邪魔をして、そこに生えている和ハーブと呼ばれる草や木をご説明しながら、参加をしてくださった方にその価値とか魅力、どうやって人が使ってきたのか、これは薬効がこういうのがあるよとか、そういう話も交えてお散歩をする。Youtubeの和ハーブチャンネルというのがございまして、そちらでも私どもの代表理事の古谷が主にお話をしています。短いものだと3分、長いものだと10分くらいになっていますが、見やすい観察動画になっていると思いますので、良かったらご覧ください。あと今月、こちらの環境情報センターでワークショップをさせていただきます。食の専門家が和ハーブを使ったミックススパイス、七味唐辛子作りをやります。お陰様でたくさんの方にお申込みを頂戴しているということでスタッフの方からお話を頂戴しています。こう身近なものですけれども意外と知らないとか、それをどう使っていったらいいのだろうとか、区民の方々がご興味を持っていらっしゃるんだなということも改めて感じた次第です。2時間程度ですけれども、その場で作って、それを持ち帰って、また家庭でどうやって使っていくかということもワークの中でやっていきたいと思っております。

令和5年度は様々な活動を予定しているのですが、今年度に引き続きで、フィールドマスターという資格養成講座もやっております。その土地にあるものを、確実に見分けをしていって、また、それを人との繋がりで見つけながら楽しくご案内ができるようなガイドさんの養成を行っています。関東でもやっておりますが、九州の方にも足を延ばしてそういう活動もしております。あとはドキュメンタリー映画の上映会というのも今年やろうと思っております。山形の最上の方の紅花の文化をまとめた映画がございまして、それをこの東京江戸から新たに紅花文化を見つめるような時間になればいいなと思って企画をしております。あと現在、福島県の矢祭町という茨城との県境の町でお米農家の皆様とタッグを組みまして、和ハーブレシピの開発をしたり、また矢祭で育った和ハーブを東京など首都圏の方に運びまして、マルシェを来年度は力を入れていきたいと思っております。ようやく、リアルで人と会えるような状況になってきましたので、是非その波に乗って多くの人とリアルの場で会える場所をどんどん作っていきたくて思っています。以上です。どうもありがとうございます。



一般社団法人 日本資源環境保護促進協会の事務局を務めております梅田と申します。宜しくお願いいたします。まず、書面の訂正ですけれども、一般財団法人と記載があるのですけれども、私どもは正式には一般社団法人となります。大変失礼いたしました。



本日、参加しているメンバーは、代表の青島は、先程、向笠も申しました東京ビッグサイトの方の展示の方に行っておりますので、事務局の向笠と、広報部の理事を務めております4名の計6名で参加させていただいております。こちらから見て左手の後ろ側の4名になります。

先程、私たちの活動は、一通りご説明は差し上げましたので、簡単にお話をさせていただければと思います。先程も申したような木材ですとか、バイオマス、バイオガスのエネルギー関連、あとは群馬県の川場村というところとの繋がりっていうところで私どもは活動しているのですが、今新たに色々活動は拡充していこうと思っております。毎週、日曜日朝にこういった環境のことを知っていこうということで勉強会を開いております。それが転じてこういう場をお借りして、セミナーですとか、それこそワークショップとか私どもも参加していきたいですし、私どもから開催できるように今年はしていけたらと思って、計画を進めているところです。

また、私が今座っております席のところにあるこの作品ですけれども、こちら既に展示スペースをお借りさせていただいて、いくつか作品を展示させていただいております。これ全て間伐材で作っているものになっておりまして、今年は先程ちょっと川場村でエンジェルボードを活用、導入しているというお話をさせていただいたと思います。これを、今年度はすぐにといいところは難しいかもしれないですが、別に川場の木に拘っているわけではないというか、国産材というところに拘っているので、例えば東京の森林の間伐材を活用して、それを都内の学校に広めていく、そういった活動もしていきたいなという風に考えております。

私ども新しく所属させていただいて、あまり皆様のように制度ですとか体制が整っていない部分もあり、なかなか思うような活動ができなかったコロナ禍でもございましたので、今年は心機一転新たなメンバーも加わりましたので、しっかりと取り組んでいきたいなと思いますので、引き続き、宜しくお願いいたします。以上です。

(日野) 展示している製品を他の方にも説明していただけますか。

(梅田) 一番見えている大きいものがブックシェルフになっています。今、向笠が持っていたものはエンジェルボードですけれども、ブックシェルフになっていまして、本棚ですね。

(向笠) こちらがノートパソコンの台です。それとスマホやタブレットのスタンド。こちらはここがペン立てにもなっていて、そこにスマホを立てることが出来て、こういう風に立ててもいいのですけ



れども、スピーカーの音がでるように穴が開いていて、動画視聴にもとてもいいです。あとはドアの材料だったり、私が掛けている名札もそうなのですけれども、全て川場村の杉の間伐材などを使っています。間伐材、バイオマス燃料、燃料も川場村の木を使っております。以上です。

## ・意見交換・質疑応答

(敬称略)

(向笠) 中央区環境保全ネットワークさんに聞きたいことがあるのですが、この子どもとためす環境まつり 20 回はリアルで開催されますか？是非、出展したいと考えておりますので、ちょっと私の一存では決められないのですが、私はそう考えております。

→回答：リアルでやります。

(平川) ジェイリッパさんに質問ですが、エンジェルボードを小学校の方に納入されているということですが、子どもさんたちからどういうお声があがっているかとか、先生とか教育者の方からどういうお声があがっているか、もし宜しかったらお聞かせいただけますか。

(梅田) ご質問ありがとうございます。これは川場村の小学校で導入させていただいているのですけれども、子どもたちからするとこれが当たり前になってしまっているのです、何か他と比較しての声というのは今まであまり聞いてはいないのです。けれども、ただ、本当に子どもたちが大事に使っているなどというのは、6年生として最後、卒業の時に渡すものとしてもそうですし、結構愛着を持って使ってもらっているというのは先生方からもお声はいただいているところです。やっぱり一番大きいのが、その後ずっと飾っていられる。卒業した後も自宅に持ち帰って、普通に壁に掛けるということもできるので、親御さんからはすごく喜ばれる。子どもからしたら恥ずかしいようなことが書いてあるかもしれないのですけれども、大人になった時に見て、親御さんもそうですし、子どもの成長を感じられるっていう、そういったお声はいただいております。

(白岩) 非常に丁寧に使っている子どももいるのですけれども、傷だらけにした子どももいるのです。暇つぶしみたいに、ほじくり返したような板もあるのです。だけどやはり6年生くらいになると、恥ずかしいと思うらしいです。自宅に持って帰って飾っておくと、学校へ行ってどういう生活をやっていたのかっていう、心配する親御さんもいるのだそうです。やはり子どもが学校に行ってもどういう環境で勉強しているのが、つぶさに分かるということで、親としては、勉強しているのが見えるような気がする。というような意見も必ずありました。

今年から中学の方にも設置するようになりまして、今中央区さんの学校ですとか、世田谷区と川場村の学校とのコラボを私たちは試みています。世田谷区の子どもたちが林間学校でかなり来ますので、世田谷区の人たちとも、学校ともコラボしたいなど、そういうことで普及活動もやっております。子どものことを考えたそういうコラボを、今私どもとしては全国的に推進していきたいと思っております。宜しくお願いします。

(飯田) 地中熱利用促進協会にお伺いします。改訂版ができたという話ですけれどもそれは有料でしょうか？どのくらいで分けていただけるのですか。北海道で地熱発電をやっている知り合いがいますので紹介したいなと思いました。

(赤木) まず、これ有料でございます。それで実は書店流通はしていなくて協会から直販という形を取っております、価格が税別の4,000円になっております。初版の方は一般の出版社から出版されて、オーム社が出したのですけれども、残念ながらあまり部数が多く出ていなかったということで、改訂版から協会からの直接の出版になったという、そういう経緯でございます。

(尾木) 和ハーブさんに質問させていただきたいのですけれども、雑草たくさんありまして、例えば最強雑草「はますげ」というものがあるのですけれども、ご存知でしょうか。はますげ、こぶしと呼ばれる漢方にも使われるものみたいですが、非常に生命力があって賢くて、色んな手段で命を長らえる方法を備えています。この藤江さんはそれを全部掘ってふるいにかけて、手を加えているのですが、何か食用で、漢方では更年期とかで使えると聞いたことがあるのです。わんさかあるのですけれども、活用もできないのです。何かそういったものを教えていただけたら有難いということと、講座を開かれるということで、うちも来年講座を開こうと思うのですけれども、どういったところから始めるかとか包括的な質問で申し訳ないのですが、何かアドバイスがあったら頂戴できますか。

(平川) ご質問いただき、ありがとうございます。「はますげ」ですね、ちょっと私自身はあまり「はますげ」については詳しくはないのですが、山口県の海沿いの方ですが、ちょっと古い書物で「防長風土注進案」というタイトルの古文書があります。そこではかなり「はますげ」が、地域の産業に役立てていたような記録があったことを今ちょっと思い出しました。なので、色んな地域に薬草とか有用薬物をまとめた本草学に繋がるようなものでもございますが、資料などもあるので、少し今の資料ももちろんいいのですが、少し古い時代の資料なども当たってみると面白いのではないかと、もしかしたら活動のヒントになるようなものがあるのではと思いました。

あともうひとつ、もう既にたくさんイベントをなさっていると思うのですが、今は、SNSとかホームページとかYouTubeとか色々な広報ツールがあると思います。やはり参加した人が「また来たい」と言っていたらいいように、ちょっとリピーターの方には有利な制度を作ったり、お友達紹介みたいなものをしたり、あと親御さんとお子さんの繋がりや、ちょっと学校の方で配り物をして告知をしたりですかね。最近ですと、30歳くらいの若い男性たちが和ハーブに興味を持っていただいているという傾向もあります。あとは飲食のお仕事をされているような方、バーテンダーさんとかも今、薬草を使って新しいドリンクを開発してお店で出すというご縁もあります。今までですと、40代50代60代の女性が多い内容ではあったのですが、今ぐっと年齢層も下がりつつあって、何かその辺がアプローチできるようなことがあるといいのかなと思います。答えになっているか分からないのですが、本当にこの都会でもそういう色々なことを学べるので、全国どこでもできるのがいいことじゃないかなと思います。

(日野) 活動団体への理解者・会員の拡大、特に一般の若者への働きかけについて伺いたいのですが。特に「地中熱」さん、「狼と森」さん、のような理論的かつ専門的な分野の広報、アピー



ルのノウハウ・工夫についてですが。一般的には子ども向けワークショップなどは人気があるようですが。

(赤木) そこが難しいところですね。我々地中熱では中々子どもに対して楽しめるものの提供が難しいのです。最近、環境省も力を入れてくれて、子ども向けの動画やパンフレットを作ってくれて、そういったものを活用した環境学習イベントなどで置いておくと、かなり関心を示してくれたりすることはあるのです。けれども、専門的なことを説明しようと思うと、何しろヒートポンプだとか、「小学生には理解できるわけない」というような状況ですので、そのところが中々難しく、大人でも中々分かりにくいところで苦慮しています。例えば「ヒートポンプ」(ヒート熱のポンプですが)、人間も例えば物を下から上に持っている時に、ほんのこれだけ運ぶのだったら楽だけど、ここからここまで「わー」ってやろうと思うと、「ものすごく大変でしょ」とかそんなことをジェスチャーで説明して、理解してもらおう工夫は色々やっているのですけれど、中々それが継続的に興味を示してもらおうというところが、なかなか難しい課題だになっていくところなんです。

もうちょっと進んで大学生とかになると、やっぱりそれぞれの関心が色んなところに向いてきて、そういうところに興味を持ってくれる学生とか、そういう風な人はいたりするので、そういう方々は自分でも勉強するので、一定の自分の興味でもって、それをどんどん調べてくれる、どんどん勉強してくれる人というのはどんどん進んでくれるのです。けれどもそうでない方々へのアピールっていうのが難しいのです。先程展示会でもそういうところに来てくれる人、エコプロなんかは、エコにはエコロジーだとかエコノミーだとか色々エコが含まれているってことで主催者とやっているのですが、一般市民の方が来るところで、じゃあ「地中熱って知っていますか」というと、恐らく地熱発電と区別がついて、こういう空調に使っているというのを理解している人っていうのは、まあ1割2割というところで、他の人は地熱発電なら知っているというところなのです。そこにその地中熱っていうのをアピールしていくっていうのは中々難しいところなんです。イベントで一発アピールというのは、やっぱり一回きりじゃ中々無理ということなので、それに関しては周りにそういうものがある環境で、関心を持ってもらうということがひとつの方法なのかなというところなんです。

先程フォーラムの話をしたのですが、フォーラムで島根県の山の中にある邑南町の方に講演していただいたのです。そこが地中熱をこれから導入する環境省のプロジェクトをやるということで、それに関して講演していただいたのです。なんでそこで地中熱を計画に入れたのかというようなことで、その場所は、峠を越える山道、そこで予め融雪、雪を溶かすのに地中熱を使っていた。地元では地熱、地熱と言っていたそうなのですけれど、そこは雪が溶けていて、安全に通れるってことで地元の人がそれに触れて知っていたということです。その計画を作る時に、逆に住民の方から声が上がったそうです。駐車場の融雪をするのに使えばいいんじゃないか。やっぱりそういう風に身近に触れている環境によって使えるということが理解していただける。そういう環境というのは非常に重要ということは先日講演があった時に、そういうことを発表されて非常に感心したところでございます。答えになっているか分かりませんが、以上です。

(日野) ありがとうございます。

あっという間に予定時間が参りました。

では最後に、主管の武藤環境課長から本日のご感想、総括コメントをお願いいたします。

## 【 所感・総括コメント 】

中央区環境土木部環境課長

武藤 智宜 氏

本日は、どうもありがとうございました。発表していただいた内容だけでも「イクシバ」さんからCO2の吸収ですとか、「狼と森の研究所」さんからは生物多様性ですとか、「JREPPA」さんからは木材活用ですとか、区で取り組んでいる「脱炭素」に直接かかわってくるお話もありましたし、直接、間接的なものも含めて全てSDGsだとか脱炭素にも繋がっていく取り組みなのかなと考えております。区としても「ゼロカーボンシティ宣言」を



しておりますので、様々な取り組みを通じて皆さんと一緒に協力しなから、こうした目標に向かって進んでいければと思いますので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

## 【 閉 会 】

# 環境活動登録団体活動報告書

平成 25 年 6 月登録

<p>団 体 名</p>	<p>一般社団法人 エコまちフォーラム</p>
<p>令和4年度 活動報告</p>	<p>◆エリアエネルギーマネジメントの実施、普及</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ化の為に建物調査として東京スクエアガーデンの電気使用量の分析を実施しています。カーボンニュートラルの実現に向けた新しい取り組みを始めています。</li> <li>・省エネ相談等を地域へ進めていく為には、地域との繋がりを増やしていくことが重要であり、地域のコミュニティー活動へ積極的に参加しました。</li> <li>・最新の省エネ技術紹介の「省エネ化技術紹介シート」をデジタルブックでの掲載に変更し、ホームページからの閲覧が可能となりました。</li> <li>・エネルギーの見える化として AEM センター内でスマホによるデモを実施しています。</li> <li>・昨年度行った HP のリニューアルにより、今年度も講演会などの内容やニュースなどを見やすくわかりやすいサイトで報告しています。</li> </ul> <p>◆省 CO2、省エネに関するセミナー等の開催及び、講演、視察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央区主催「エコビル探検ツアー」(8/10)の講師を務めました。</li> <li>・「エコまちサークル」(6/17、9/15)を開催しました。 コロナ対策で「一般社団法人エコまちフォーラム」と「街づくりエネルギーマネジメント推進協議会」会員間のコミュニケーションが疎遠となっている中、オンライン勉強会を実施することにより、パートナー企業の情報発信とパートナー間の技術交流をはかりました。</li> <li>・幹部による「2023 年新春放談会」(1/19)を実施しました。 設立記念の催事として、講演会や座談会の企画について意見交換。 またエコまちフォーラムパートナー、まちエネ協議会会員からも公私の現状紹介や活動についてなど自由な発想で発言していただき相互のコミュニケーションをはかりました。</li> <li>・「平成、令和時代の京橋について語り合う会」(10/29)を実施し、再開発地域等の過去・現在・未来について地域の方々とディスカッションを行いました。</li> <li>・中央区主催「eco ワーク発表会」へ参加しました。</li> </ul> <p>◆社団パートナー企業と各種専門家や行政との研究開発業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建築・都市、環境・エネルギー、経済・社会等について地域の省エネ化の為に研究活動を実施しました。</li> <li>・まちづくりと低炭素化やエネルギー対策の進め方等についての検討会を地方自治体と実施しました。</li> <li>・「省エネサミット」を発足し、下記の分析、検討等を行っています。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶東京スクエアガーデンのエネルギー分析、省エネ対策検討を行っています。</li> <li>▶月次レポート自動作成システムを開発中です。</li> <li>▶「RPA/BIを活用したデマンドデータ分析サービス」を開発中です。</li> </ul>
活動報告の反省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社団の活動は、地域の方に理解されてきたと感じていますが、中小ビルへの省エネの普及は、まだまだで、積極的な係わり合いが必要だと感じています。</li> <li>・ いろいろな方々と一緒に活動していくことが、地域の省エネ普及に役立つと考え、実践しています。地域のコミュニティ活動等へ参加するなど、地域との密着度を上げる工夫をしていますが、更に様々な工夫を凝らしていくことが重要だと思います。</li> </ul>
次年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆エリアエネルギーマネジメントの実施、普及 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 省エネ化の為に建物調査として近隣ビルの電気使用量の測定、診断を継続実施します。また、エリアエネルギーマネジメントの実施を近隣ビルで増やしていけるよう活動していきたいと思えます。</li> <li>・ 地域との連携の為に、環境活動だけでなく、お祭や防犯パトロール等のコミュニティ活動等へも引き続き参加していきます。</li> </ul> </li> <li>◆省CO2、省エネに関するセミナー等の開催及び、講演、視察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コロナの感染状況を勘案し、セミナーや見学会等はオンラインと対面のハイブリッド形式で開催する予定です。</li> <li>・ 実務的な講演の「エコまちサークル」では、情報発信・交流の場をさらに広げていきます。</li> <li>・ 中央区との連携活動を継続していきます。</li> </ul> </li> <li>◆社団パートナー企業と各種専門家や自治体との研究開発業務継続 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築・都市、環境・エネルギー、経済・社会等、多角的な視点から、地域の省エネ化、低炭素まちづくりの研究活動を続けていきます。</li> </ul> </li> </ul>
次年度活動の特記事項等	<p>今後も中央区の環境活動に、積極的に取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>講演等のご案内、募集のお知らせは、当社ホームページをご覧ください。  <a href="http://www.ecomachi-forum.or.jp">http://www.ecomachi-forum.or.jp</a></p>

# 環境活動登録団体活動報告書

平成 25 年 6 月登録

<p>団 体 名</p>	<p>中央区環境保全ネットワーク</p>
<p>令和 4 年度 活動報告</p>	<p>4 月 21 日 第 21 回総会 研修会 「家庭ごみから環境問題に取り組んでみましょう!!」</p> <p>6 月 5 日 中央区エコまつり参加</p> <p>6 月 11 日 中央区の森 森林整備体験ツアー開催 参加者 27 名</p> <p>6 月 24・25 日 中央区ブーケ祭り参加</p> <p>8 月 打ち水大作戦：予定会場が工事のため、令和 4・5 年度実施不可</p> <p>10 月 1 日 第 19 回 2022 年子どもと ためす環境開催（中央区立佃島小学校）</p> <p>10 月 22 日～3 月 31 日 2022 年子どもとためす環境まつり WEB 版開催</p> <p>11 月 12～14 日 環境活動フェス 2022 パネル展示参加</p> <p>2 月 1 日 中央防波堤埋立処分場と食品 ロスを考える見学会 実施</p> <p>2 月 9 日 e c o ワーク発表会参加</p> <p>2 月～3 月 ◇子どもとためす環境まつり WEB 版 オンラインイベント（区内プレディ等と 双方向通信による環境教室）開催予定 ※中央区環境保全ネットワーク運営委員会 毎月 1 回開催 ※「子どもとためす環境まつり」実施のための WEB 会議 2 回開催</p>  <p>子どもとためす環境まつり</p>
<p>活動報告の反省 (活動上の問題点 等)</p>	<p>組織の高齢化が進み、活動に支障が生じないように、新規個人会員の加入促進と、運営委員会等への団体会員参加のあり方。</p>
<p>令和 5 年度 活動計画</p>	<p>4 月 第 22 回総会・研修会</p> <p>6 月 中央区エコまつり・ブーケ祭り参加 中央区の森 森林整備体験ツアー開催</p> <p>10 月 「2023 年子どもとためす環境まつり」開催 会場：久松小学校予定</p> <p>11 月 環境活動フェス 2023 参加</p> <p>2 月 e c o ワーク発表会参加 浜離宮クリーンエイド&amp;野鳥観察会開催 ※この他研修会を予定</p>  <p>森林整備体験ツアー</p>
<p>令和 5 年度 活動の課題等</p>	

# 環境活動登録団体活動報告書

平成 25 年 10 月登録

<p>団 体 名</p>	<p>特定非営利活動法人 地中熱利用促進協会</p>
<p>令和 4 年度 活動報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■第 3 回全国地中熱フォーラム（2 月 1～3 日予定・ENEX2023 と同時開催）</li> <li>■地中熱関連補助事業説明会（3 月・ウェビナー開催予定）</li> <li>■展示会・イベント 5 つの展示会・イベントに出展（予定 1 含む）、 うち地中熱共同ブース 2 回（2022 地球温暖化防止展、ENEX2023）</li> <li>■協会発行の地中熱ガイドブック Vol. 9 発刊</li> <li>■会員企業名鑑 2022 発行</li> <li>■地中熱施工管理技術者資格試験（一級・二級） 2022 年 12 月 11 日実施、 登録更新講座 2022 年 11 月～2023 年 3 月（動画配信）</li> <li>■TRT 装置認定制度 認定台数 23 台（2023/1/16 現在）</li> <li>■地中熱講座の開催 基礎講座（7 月 11・12 日、対面開催）、施工管理講座（11 月 25・26 日、オンライン講座）</li> <li>■地中熱施工管理マニュアル 改訂版発刊（9 月）</li> <li>■再エネ熱利用促進連絡会（当協会、ソーラーシステム振興協会、日本木質バイオマ スエネルギー協会）にて再エネ熱利用拡大に向けた各種活動展開</li> <li>■第 9 回協会活動オリエンテーション 5 月 12 日開催</li> </ul> <p>&lt;請負事業等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【環境省】令和 4 年度地中熱利用状況調査業務</li> <li>【NEDO】再生可能エネルギー熱の普及拡大に向けたシナリオ策定に係る調査</li> <li>【NEDO】再生可能エネルギー熱の普及拡大に向けた人材育成講座</li> </ul> <p>&lt;中央区立環境情報センター・センターサークル関連&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■中央区エコまつり（パンフ配布）、環境活動フェス</li> </ul>
<p>活動報告の反省 (活動上の問題点 等)</p>	<p>新型コロナで制限されていた社会活動が次第に再開する中で、協会もこの間の社会の変化に対応しつつ定常活動を再開するために、業務量が増大した 1 年だった。加えて、2050 年カーボンニュートラル宣言で再エネへの関心が再び高まる中、大型イベントの企画や業務の請負が重なり、従来の普及促進活動で対応が行き届かない面が多々あった。</p>

<p>令和5年度 活動計画</p>	<p>2023年度 地中熱利用促進協会 年間行事</p> <p>&lt;展示会・イベント&gt;</p> <p>4月 第10回協会活動オリエンテーション</p> <p>5月24～26日 2023地球温暖化防止展</p> <p>秋予定 第4回全国地中熱フォーラム（佐賀）</p> <p>12月6～8日 エコプロ2023</p> <p>1月31～2月2日 ENEX2024【共同ブース】</p> <p>3月予定 2024年度地中熱関連補助事業説明会</p> <p>&lt;地中熱講座&gt;</p> <p>未定 第19回地中熱基礎講座</p> <p>未定 第9回地中熱施工管理講座 （設計に関する講座はNEDO事業内で実施予定）</p> <p>&lt;地中熱施工管理技術者資格制度&gt;</p> <p>6月予定 受験の手引き公開</p> <p>6月～翌3月予定 2023年度登録更新講座</p> <p>9月～10月予定 受験申込受付</p> <p>11月下旬頃予定 試験実施</p> <p>2月初旬 合格者発表</p> <p>&lt;中央区立環境情報センター・センターサークル関連&gt;</p> <p>6月 中央区エコまつり</p> <p>11月 環境活動フェス</p> <p>2月 ecoワーク活動発表会</p>
<p>令和5年度 活動の課題等</p>	<p>●第4回全国地中熱フォーラム 2023年に佐賀市で開催予定</p> <p>●「地中熱の普及拡大 中長期ロードマップ」の改訂 協会では2017年に「ロードマップ」を策定したが、その後2050年カーボンニュートラル宣言やウクライナ情勢によるエネルギー安全保障環境の変化など、大きな状況変化が起きていることから、ロードマップの見直しを行う。</p>

## 環境活動登録団体活動報告書

平成 25 年 11 月登録

団 体 名	特定非営利活動法人 育てる芝生～イクシバ！プロジェクト
令和 4 年度 活動報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 黎明橋公園               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ <b>通常の芝生育て活動 55 回、参加人数 770 人</b></li> <li>◇ 新規事業として “コンポスト！” 運用（緑のアダプト制度利用）</li> <li>◇ 社会福祉協議会との共催 “夏休みイナっ子ボランティア”（7 月・8 月）</li> <li>◇ 中央区地域家庭教育推進協議会との共催 “家庭教育学習会”（9 月）</li> </ul> </li> <li>● つくば市竹園西広場公園               <ul style="list-style-type: none"> <li>つくばイクシバ！アドバイザー 12 回</li> </ul> </li> <li>● 月島第二児童公園にて               <ul style="list-style-type: none"> <li>緑の中央区へ区民フリーマーケット主催（4 月） 100 出店者規模</li> </ul> </li> <li>● 日本芝草学会にて（6 月、10 月）               <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 50 周年全国大会にて黎明橋公園からの発表</li> <li>◇ 秋期静岡大会にて清水町の園庭芝生化幼稚園の取材ビデオ作成</li> <li>◇ 学会誌寄稿</li> </ul> </li> <li>● 芝生地視察（10 月、11 月）               <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県鶉住居スタジアム、楽天奇跡の一本松球場、長野県 U スタジアム他</li> </ul> </li> <li>● 芝草管理技術士取得</li> <li>● NPO 法人取得</li> <li>● 都市緑化機構主催 “緑の都市賞 第一生命財団賞” 受賞</li> </ul>
活動報告の反省 (活動上の問題点 等)	反省点は特になし
令和 5 年度 活動計画	<p>R4 年度と同様 変更は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月島第二児童公園でのフリーマーケットを断念</li> </ul> <p>新規に予定しているものは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他地域でのイクシバ活動の開始</li> <li>・ 黎明橋公園での芝生フェスの開催</li> <li>・ 芝生教室・コミュニティマネジメント教室の開催</li> </ul> <p>その他</p>
令和 5 年度 活動の課題等	NPO 法人活動を開始するにあたり、通年の任意団体での活動より広範囲になるため、活動費が大きな課題。



## 環境活動登録団体活動報告書

平成 27 年 6 月登録

団 体 名	狼と森の研究所
令和 4 年度 活動報告	<p>◎ 5 月 24 日 東京都市大学 オンライン講義「オオカミの復活と自然保護」 受講生約 100 名</p> <p>◎ 5 月 30 日 酪農学園大学 オンライン講義 米国立公園イエローストーンの生態系とオオカミについて、公認ガイドによる 現地と結んでの講義に、日本側講師として参加。 朝倉「日本のオオカミの歴史」 南部「日本でオオカミを研究する意義」 受講生約 30 名</p> <p>◎ 6 月 5 日 中央区エコまつり（於 あかつき公園） パネル展示。オオカミ・クイズに参加したこどもたち 35 名</p> <p>◎ 朝倉裕 著『絶滅したオオカミの謎を探る ―復活への序章―』刊行</p> <p>◎ 11 月 12～14 日 環境活動フェス 2022 パネル展示。</p>
活動報告の反省 (活動上の問題点 等)	<p>依頼を受けての講義や活動が中心となった 1 年だった。 今後は、コロナ状況に左右されず不特定多数に向けてアプローチできる方法を自分たちでも模索していきたい。</p>
令和 5 年度 活動計画	<p>これまで通り、オオカミという動物の科学的に正しい姿を広く一般に認知してもらえるよう、自然生態系にとって、また人間社会にとって、オオカミがどのような意味をもつ存在でどんな役割を果たすのかを、「世界のいま」を含め発信していきたい。 令和 5 年度もオオカミについての展示や講座を実施し、生物多様性に富む日本の未来を展望する機会を提供したい。</p>
令和 5 年度 活動の課題等	<p>メールマガジンや SNS、書籍の出版といった情報発信を継続することに加え、ドイツをはじめとするヨーロッパや、住民が賛成した結果 2023 年度中にオオカミを再導入することになっているコロラド州の現状など、生の海外情報をいち早く収集し発信できる態勢を作っていきたい。</p>

# 環境活動登録団体活動報告書

令和元年 12 月登録

<p>団 体 名</p>	<p>一般社団法人和ハーブ協会</p>
<p>令和4年度 活動報告</p>	<p>&lt;「和ハーブ検定」実施運営&gt; 年3回(3・7・11月)オンライン形式で実施。検定公式テキスト『和ハーブにほんのたからもの』、書籍『和ハーブ図鑑』による日本の有用植物文化の継承。</p> <p>&lt;講師養成講座&gt; ○通年「和ハーブフィールドマスター養成講座」 フィールド実践を中心とした、植物の有用性や保全に関わる知識を伝承するプロフェッショナルな人材育成を目指す講座を開講。今年度は全国各地に実施コースの輪が広がり、関東(中央区内・鎌倉)／静岡(駿東郡小山町)／千葉(印旛郡栄町)／立山(中新川郡立山町)／広島(広島県内)／愛媛(松野町)／福井(越前市)／大分(臼杵市)／鹿児島(鹿児島市・曾於市)の複数コースを開講、約80名の修了生を輩出することができた。</p> <p>&lt;一般向けフィールド散策講座&gt; 各地でフィールド散策講座を開講し、その土地に古くから伝わる有用植物の知識の普及と自然環境への理解を深める。 ○通年「春夏秋冬・鎌倉和ハーブ塾」 ○4・11月「樹木森林療法講座」(新宿御苑／神代植物公園) ○5月「和ハーブあしもとのたからもの講座(座学・散策)」(福井県越前市) ○8月「朝の和ハーブ散歩@肥後細川庭園」(文京区) ○12月「お江戸和ハーブ散歩@浜離宮」(中央区)</p> <p>&lt;現地体験会&gt; ○3月「琉球ハーブ塾」(沖縄本島) ○6月「山形和ハーブ塾」(山形県内) ○10月「能登クロモジ植樹体験会」(石川県内) 養命酒製造株式会社と石川県能登町でクロモジ精油を生産するノトノカとの共同プロジェクトで、地元植物を活用した地域振興サポートと企業活動の支援。</p> <div data-bbox="422 1646 1045 1870"> </div> <p>&lt;一般向けワークショップ&gt; ○3月 中央区環境情報センターにて「親子で楽しむ春の和ハーブ講座」 ○6月 中央区エコまつり「和ハーブボールづくり」</p>

	<p>地域在住の親子を中心に、和ハーブクラフトづくりのワークショップを実施。</p> <p>○9月 「三鷹大沢の里古民家講座」（東京都三鷹市）</p> <p>○10月 屋外ワークショップイベント出展（東京都三鷹市／千葉県柏市）</p> <p>○12月 「和ハーブ橋と迎える節目のしつらい」外部セミナー（港区）</p> <p>○令和5年2月 和ハーブスパイスづくり実践講座（予定）</p> <p>◆その他事業</p> <p>○令和4年度 福島県地域創生総合支援事業（県南地方振興局）に基づき、福島県矢祭町にて地域部会を立ち上げ、矢祭和ハーブの農産物化、流通促進の取組みを開始。風土の独自性とそこに育つ和ハーブの魅力を掛け合わせ、地域の新しい産業を目指す。</p> <p>○和ハーブロード設置業務（静岡県小山町）進行中。</p> <p>◆企業、行政、団体への掲載提供・メディア掲載</p> <p>○3月：東京都三鷹市『みいむ』取材コラム掲載</p> <p>○6月：かどや製油会報誌にて特集ページ</p> <p>○6月：書籍『和ハーブのある暮らし』（エクスナレッジ）出版</p> <p>○8月：毎日新聞全国版くらし医療面 取材記事掲載</p> <p>○11月：MET イノベーションサミット講演</p> <p>協会公式ホームページ (<a href="https://wa-herb.com/">https://wa-herb.com/</a>)・SNS 等にて最新の活動状況を掲載中。</p>
<p>活動報告の反省 (活動上の問題点等)</p>	<p>○当協会会員のみならず、より幅広い層へ普及活動を周知する機会をいただいた。</p> <p>○新たに講座・取材依頼等を頂戴することができた。今後もホームページや SNS での情報発信を丁寧に行ってまいりたい。</p>
<p>令和5年度 活動計画</p>	<p>○各地での「和ハーブ講座」、「フィールドワーク」の開催</p> <p>今年度に引き続き、各地での講座や勉強会の開催により、植物や自然環境を可能な形で守り、乱獲を防ぐための知識と理性を未来へ受け継ぐ働きかけを継続する。</p> <p>○行政への情報提供・活動協力</p> <p>静岡県小山町、富山県立山町、岐阜県内某市にて環境植生と地域文化に配慮した「和ハーブロード」の構築等を引き続き支援。</p>
<p>令和5年度 活動の課題等</p>	<p>○個人様向けの知識普及や教育に留まらず、企業、行政、団体との協働により、より多くの方々へ自然環境保全の呼びかけや地域支援に繋がるよう努めていく。</p> <p>○植物観察のみならず、飲食で身近な和ハーブについて知り、学ぶ講座を展開することで、すそ野を広げていく。</p>

## 環境活動登録団体活動報告書

令和3年 7月登録

団 体 名	一般社団法人 日本資源環境保護促進協会
令和4年度 活動報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジェルボード                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡小学校・中学校入学の子供たちに国産材を使用した机の天板を進呈</li> </ul> </li> <li>・群馬県川場村ツアーの開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>➡田園理想郷を掲げる群馬県川場村において東京都内で活躍する経営者の方を中心に視察会、交流会を開催</li> </ul> </li> <li>・国産材の有効活用のためのキュービックプレミアムハウスの推進</li> </ul>
活動報告の反省 (活動上の問題点等)	<p>活動に興味を持って頂き賛同してくださる方も増えた1年間となりました。団体としての枠組みなども徐々に決め始めたため、セミナー開催など行いたいと考えていたいくつかの行事を延期することになった部分は反省点として今年度の活動に活かしてまいります。</p>
令和5年度 活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の活動は継続しながら、実績を増やしてまいります。</li> <li>・また、昨年実施できなかったセミナーを開催したいと思います。</li> </ul>
令和5年度 活動の課題等	<p>今年度の活動につきましては、昨年末に協会員募集の枠組みを作成しましたので、まずは、協会員を増やしていくところを課題として注力して参りたいと思います。その取り組みとして、日本、そして世界の置かれている現状をお伝えするようなセミナーを開催して参る所存でございます。</p>

## ◆環境活動登録団体 eco ワーク発表会アンケート結果

### ・情報入手について(複数回答可)

団体からの案内	10
区報	1
チラシ	2
インターネット(HP)	2
SNS	1

### ・活動発表について

#### 【発表1】 『中央区で生まれた”コミュニティ芝生”という芝生の育て方』 特定非営利活動法人 育てる芝生～イクシバ!プロジェクト

非常に参考になった	11
参考になった	3
未回答	1

#### (感想等)

- ・頑張ってください。
- ・自宅の近くにあれば参加したいと思いました。この運動を全国に広げていきたいですね。
- ・芝生が CO2 吸収に効果があることを知り、とても興味深かった。コンポストについても詳しく伺いたい。
- ・楽しみながら作業を行うことで、人が集まっていると思いました。
- ・芝生って意識したことがありませんでしたが、とても良いですね。手間のかかるものだけど、その手間を皆で分け合いボランティアの活動としたら良いことしかないですね。興味深いです。
- ・芝生を植えるプロジェクトではどのくらい費用が掛かったのか教えていただきたいと思いました。
- ・すばらしい活動だと思いました。

#### 【発表2】 『絶滅したオオカミの謎を探って』 狼と森の研究所

非常に参考になった	8
参考になった	5
未回答	2

#### (感想等)

- ・息の長い活動、ご苦労様です。

- ・日本の生態系もよい方向に進んでいることを知りました。
- ・肉食獣の減少が植物の減少を招いている現状についての因果関係を知ることができた。
- ・狼と人間の関係が一番難しいと感じました。
- ・生態系のピラミッドを正常化させるというのは難しいですが、理解を広める、深めることはできると思うので意識してまいりたいです。
- ・大学での講義内容をうかがいたいと思いました。
- ・鹿が大好きなのですが、バランスが崩れたら被害になることを知りました。大台ヶ原の状況を知りショックです。捕食者を確かに悪者にしていた気がします。考えが改まりました。

### 【発表3】 『循環型社会の形成を目指したSDGsへの取り組み』

#### 一般社団法人 日本資源環境保護推進協会

非常に参考になった	8
参考になった	4
未回答	2

#### (感想等)

- ・川場村へ行ってみたい。
- ・川場村の様な小さな村で積み上げた実績、非常に素晴らしい。
- ・限りある資源の有効活用が大切だと感じました。
- ・Angel Boardが欲しくなりました。コタツの天板にしたい。川場村のバスツアーに行きましたがとてもステキなところでした。
- ・本来の目的は分かったが、今一甘く感じた。
- ・一度見に行きたいと思いました。

#### ・意見交換会について

非常に参考になった	8
参考になった	6
未回答	1

#### (感想・意見)

- ・リアルでお会いでき、良い機会となりました。
- ・SNSの利用、参考になった。
- ・お互いを知る良い機会となった。
- ・様々な団体の活動を知れて大変参考になりました。
- ・中央区内の団体を知れて良かった。

#### ・その他、次回への要望や希望する議題、感想等について

- ・登録団体の活動を知るため、例えば、川場村等の視察を考えたら。
- ・久々のリアル開催ができたことが何より良かったことと思います。横のネットワークが盛んになるよう、よろしく願いいたします。

- ・多くの団体が集い、意見交換ができることを望んでいます。
- ・改めて他団体のお話を聞いてみたいと思いました。
- ・これからも誠実に頑張っていきたいと思いました。
- ・いろいろな活動をされていて参考になりました。